

大正九年法律第十二號中改正法律案外一件(大正九年法律第十二號中改正法律案) 委員會會議錄(筆記) 第一回

委員會成立

本委員ハ大正十年二月二十四日議長ノ指名ヲ以テヲ
ノ通り選定セラレタリ

- 今泉嘉一郎君 伊澤平左衛門君 竹上藤次郎君
- 坂本素魯哉君 故山 耕藏君 古賀三千人君
- 鶯澤 宇八君 富永孝太郎君 井内 歡二君
- 同月二十五日午前十時四十分委員長理事互選ノ爲各
委員參集ス其ノ氏名左ノ如シ

- 今泉嘉一郎君 伊澤平左衛門君 竹上藤次郎君
- 坂本素魯哉君 鶯澤 宇八君 富永孝太郎君
- 井内 歡二君

年長者伊澤平左衛門君投票管理者トナル
投票管理者(伊澤平左衛門君)ハ委員長及理事ノ互
選ヲ行フヘキ旨ヲ宣告ス

竹上藤次郎君ハ投票ヲ用キス坂本素魯哉君ヲ委員
長ニ、井内歡二君ヲ理事ニ推薦スヘシトノ意見ヲ提
出ス

投票管理者(伊澤平左衛門君)ハ竹上君ノ意見ニ異
議ナキヲ認メ坂本素魯哉君ハ委員長ニ井内歡二君ハ
理事ニ當選シタル旨ヲ宣告ス

(此ノ時投票管理者退席シ坂本素魯哉君委員
長席ニ著ク)

委員長(坂本素魯哉君)ハ引續キ會議ヲ開クヘキ旨
ヲ宣告ス

會議
出席政府委員左ノ如シ

- 臺灣總督府財務局長 阿部 滂君
- 臺灣總督府參事官 鼓 包美君
- 樺太廳長官 永井金次郎君
- 樺太廳事務官 石坂 豐一君
- 大藏書記官 草間 秀雄君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
大正九年法律第十二號中改正法律案
明治四十年法律第二十一號中改正法律案
○委員長(坂本素魯哉君) ソレデハ是カラ大正九年

法律第十二號中改正法律案外一件ノ委員會ヲ開キマ
ス、質問ノ前ニ政府委員ノ説明ヲ求メタイト思ヒマ
スガ、ドウデゴザイマスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○草間政府委員 大體改正ノ趣旨ダケ申上ゲテ置キ
タイト思ヒマス、此大正九年法律第十二號ノ印刷物
ガ先キノ方ニゴザイマスガ、是ハ此植民地ト内地ト
ノ間ノ其所得稅ノ重複ヲ避クル爲メニ昨年此法律ヲ
施行シタノデアリマス、然ルニ昨年マデハ此朝鮮、臺
灣、關東州、樺太ニ於テハ唯ダ法人ノ所得稅ダケガ課
セラレテアッタ、ソレデ大正九年法律第十二號ハ法人
ノ所得稅ノ重複課稅ヲ避ケル趣旨デ出來テ居タノデ
アリマス、即チ法人ノ所得ニ就テハ、其所得ガ何レ
ノ土地デ出來テモ、總テソレヲ本店ノ在ル所ニ於テ
課稅スルト云フコトニナツテ居タノデアリマス、例ヘ
バ東京ニアリマス會社ガ臺灣トカ、或ハ朝鮮アタリ
デ得マシタ所ノ所得ニ對シテハ、全部日本内地ノ所
得稅法ニ依ツテ課稅シタノデアリマス、然ルニ又植民
地ニ於テノ——内地ノ會社ガ植民地ニ土地ナリ、或
ハ其他ノ資產ヲ持ツテ居ルト云フ場合ニハ、本店ガ無
クトモ其分ダケ區分シテ課稅ガ出來ル譯デアリマ
ス、ソレデ此法律ガアリマセスト内地デハ全體ニ課
稅セラレ、植民地デハ資產、營業ニ就テ課稅セラル、
ト云フコトニナリマス、ソレデ其部分ニ就テハ
全部内地デ課稅シテ、臺灣其他關東州等ニ於テハ其
等ノ資產ニ對シテ課稅シナイ、一面今度ハ植民地ニ
アリマス所ノ會社ノ資產、營業ガ内地ニアツテモ、其
部分ニ就テハ全部總メテ植民地デ課稅シテ内地デハ
課稅シナイ、斯様ニ法律第十二號ガ出來テ居タノデア
リマス、然ルニ今回ハ臺灣ニ於テ第三種ノ所得、詰リ
個人ノ所得ニ對シテモ本年ヨリ臺灣總督府ノ財政ノ
都合上課稅スルトコトニナリマシタ、所デ大體現在ノ
所得稅ノ立テ方ハ、例ヘバ個人ガ内地ニ於テ其個人
ノ得ル所得總テニ對シテ綜合課稅ヲスル、例ヘバ内
地ニ居ル人ガ臺灣ニ於テ資產若クハ營業ヲ有シテ居

リマス、其臺灣ニ於ケル資產、營業カラ生ズル所得
ニ對シマシテモ、内地ニ於ケル資產、營業カラ生ズル
所ノ所得ト共ニ總メテ課稅スルトニ法律ノ趣意ガ
ナツテ居リマス、然ルニ一面ニ於テ個人ガ内地ニ住居
ヲ持ツテ居リマセズ、單ニ資產、營業ダケ在ルト云
フ場合ニ於テモ、矢張ソレニ對シテ所得稅ヲ課スル、
所謂人的要素ガ無クトモ物的要素ガ有レバソレニ對
シテ課稅スルトコトニナツテ居リマス、所デ此臺灣ノ所
得稅ノ立テ方モ同様ニナツテ居リマス、ソレデ例ヘバ
内地ニ住居ヲ持ツテ居ル者ガ臺灣ニ土地ヲ持ツテ居
ト假定スルト、其土地ノ所得モ内地ノ所得稅法ニ依
テ綜合課稅ヲスル、一面ニ於テハ臺灣ノ方デ向フニ
住所ガ無クトモ、矢張其所得ニ對シテ課稅スルト云
フコトニナリマシテ、重複ニナル嫌ガアルノデアリ
マス、ソレデ此法律ニ依リマシテ、即チ今回改正
案ハサウ云フ重複ノ課稅ヲ避ケル爲メニ、内地デ課
稅スル所ノ所得ニ對シテハ臺灣デ課稅シナイ、又内
地ノ法律ニ依ツテ課稅スル所ノモノニ對シテハ臺灣
デ課稅シナイ、斯様ニシテ此重複課稅ヲ避ケルト云
フコトニ致シタノデアリマス、ソレガ改正ノ第一點
デアリマスガ、第二點ハ法人ノ所得ニ關スルトコトデ
アリマスガ、例ヘバ内地ノ法人ト臺灣ノ法人トガ合
併シタ場合デアリマス、其場合ニ此臺灣ノ法人ガ
ズツト以前ノ終了シタル事業年度ノ所得稅ヲ納メテ
居ラヌ場合ヲ考ヘルト、臺灣ニハ既ニ法人ガ合併シ
テ無クナツテシマッタノデ、向フデハ課稅ガ出來ナイ、
而モ其納メナカッタ納稅義務ヲ、内地ノ合併シタ法人
ニ其納稅義務ガ移ルト云フコトヲ明ニ規定シテ置カ
スト、課稅漏レガ出テ參ル譯デアリマス、ソレデサ
ウ云フ場合ニ於テハ、被合併會社ノ納稅義務ヲ合併
會社ニ於テ繼承スルト云フコトヲ明定スル必要ガア
ルノデアリマス、尤モ現行法ニ於テ所得稅法ノ十二
條ニ依リマス、被合併會社ノ納稅義務ヲ合併會社
ガ繼承スルト云フ明文ガアルノデアリマス、併ナガ
ラ所得稅法第十二條ノ明文ハ内地ニ本店ノアリマス所

ノ法人ダケニ之ヲ適用スル條文デアッテ、内地ト臺灣トノ法人ガ合併シタ場合ニ於テ、十二條ノ適用ガアルト云フコトニ就テハ多少ノ疑問ガアリマス、ソレカラ寧ロ之ヲ明文ニ現シテ置テ方ガ宜イト云フ趣旨カラ、第二點ノ改正ヲ致シタ譯デアリマス、ソレカラ逐條ニ就テ一、朗讀致シマセウ大正九年法律第十二號第一條「所得稅法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニハ之ヲ施行セス」第二條「朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅第三條第一種甲及戊並第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス」ソレカラ第三條ガ今度新タニ入りマス、第三條「朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ所得稅法第九條第三項及第十二條ノ規定ヲ準用ス」第四條「日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ臺灣ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ニ付テハ所得稅法第十八條第六號ノ規定ヲ適用セス」第五條「臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第三條第二種乙及第三種ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス」第六條「所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス」第七條「朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ免除ス」附則「本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十年分所得稅ヨリ、第三條改正ノ規定ハ大正十年四月一日ヲ合ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス」此第三條デアリマス、是ハ先程一寸申上ゲマシタヤウニ、此法人ガ合併シタ場合ニ於テ納稅義務ヲ繼承スルト云フ條項デアリマス、即チ臺灣ノ法人ト内地若クハ極ク簡單ノ場合ハ、臺灣ノ法人ト内地ノ法人ガ合併シタ場合

ニ於テ、其法人ガ内地ニ主タル事務所ヲ持ッテ居ル場合ガ一番簡單ナ場合デアリマス、其場合ニ於テハ此所得稅第十二條ハドウ云フ條項デアアルカト申スト、合併後存續スル法人又ハ合併ニ依ッテ設立シタル所ノ法人ハ合併ニ依ッテ消滅シタル法人ノ所得ニ付テ所得稅ヲ納ムル義務ガアルト云フノデ、要スルニ十二條ノ規定ハ内地ノ法人ガ合併シタ場合、其消滅シタ方ノ所得稅ヲ合併シタ法人ガ納メルト云フ、斯ウ云フ規定デアリマス、其規定ヲ準用シマスカラシテ、此臺灣ノ法人ト内地ノ法人ト合併シテ臺灣ノ法人ガ消滅シ、殘ル法人ノ事務所ガ内地ニ在ル場合ニハ、此稅法第十二條ヲ準用シテ、被合併會社ノ納稅義務ヲ合併會社ガ負フト云フコトニナルノデアリマス、ソレカラ所得稅法ノ九條三項デアリマス、是ハ補填免稅ノ規定デアリマス、是ハ中々面倒ノ條文デアリマス、會社ガ積立金ヲ崩シテソレヲ配當シタ場合ニハ、其崩シタル金額ニ相當スル分ダケハ、積立テモ所得稅ヲ課稅シナイト云フ規定ガアルノデアリマス、例ヘバ或會社ガ百萬圓ノ積立金ヲ持ッテ居ッテ、之ヲ五十萬圓ダケハ崩シテ配當シタ場合デアリマス、其場合ニハ更ニ五十萬圓ダケ積立テモ、ソレハ所得稅ヲ課ケテナイ、斯ウ云フ規定デアリマス、ソレデ例ヘバ甲ノ會社ガ積立金ヲ五十萬圓崩シタ場合ニハ、此會社ガ乙ノ會社ト合併シタトスルト、其場合ニハ乙會社ニハ其免稅ノ所得權ヲ保護シテヤル、ソレデ合併會社ガ更ニ五十萬圓ダケ積立テラマデハ其ノ稅金ヲ免除シテヤルト云フノデアリマス、ソレデ臺灣ノ法人ト内地ノ法人ガ合併シタ場合ニモ、其既得權ヲ保護シテヤル、斯ウ云フノガ九條三項ヲ準用スルト云フノデアリマス、ソレカラ只今申述ベマシタノハ臺灣ノ法人ト内地ノ法人トガ合併シタ場合デアリマス、臺灣ノ法人ト臺灣ノ法人トガ合併シテ、サウシテ内地ニ其法人ヲ持ッテ來タト云フ場合ニモ、矢張此條項ノ適用ヲ受ケル譯デアリマス、ソレカラ朝鮮ノ法人ト臺灣ノ法人ガ合併シテ内地ニ來タト云フ場合モ、矢張此條文ノ適用ガアルノデアリマス、ソレカラ其次ノ第四條デアリマス、第四條ハ所得稅法第十八條ノ六號ヲ御覽下サルト御瞭解ガ出來ルト思ヒ

マス、所得稅法ノ十八條ノ六號ハ「日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得」之ニ對シテハ所得稅ヲ課ケナイ、斯ウ云フノデアリマス、是ハドウ云フ場合カト云フト、即チ外國人ノ場合デアリマス、ソレデ内地人ノ場合カラ云フト、内地人即チ日本人ノ住所ガ例ヘバ東京ニ在ル、然ルニ此者ガ支那ニ或土地ヲ持ッテ居ルト假定スル、此場合ニハ其土地カラ生ズル所得ニ對シテモ、矢張内地ニ於ケルモノト綜合課稅スルト云フノガ此所得稅ノ大體ノ仕組ニナッテ居リマス、所ガ例ヘバ亞米利加人ガ東京ニ住所ヲ持ッテ居ッテ、サウシテ亞米利加ニ土地ヲ持ッテ居ル場合ハ、本來ノ所得稅ノ精神カラ申スト、其場合ニモ矢張課稅シナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、併シ外國人ガ外國ニ土地ヲ持ッテ居ルト云フヤウナ場合ニ於テハ、之ニ對シテマデモ課稅セヌデ宜イデナイカ、斯ウ云フ趣旨デハ十八條ノ六號ガ出來テ居ルノデアリマス、然ルニ從來ハ所得稅法ガ「所得稅ト云フ者ガ臺灣ニ課セラレテ居ラナカッタノデアリマシテ、ソレデ例ヘバ外國人ガ日本ニ住所ヲ持ッテ居ッテ、サウシテ臺灣ニ土地ヲ持ッテ居ルト云フ場合ニ於テ、此規定ニ依ッテ課稅ヲシナカッタノデアリマス、然ルニ今度ハ臺灣ノ方ニモ所得稅ヲ課ケルコトニナリマシテ、先ヅ日本ノ内地ノ所得稅ヲ課ケルノト殆ト大體ノ組織ハ同ジクナッテ居ルノデアリマス、謂ハハ日本ノ所得稅ガ日本ニ施カレタト同ジヤウナ事ニナッテ居ルノデアリマシテ、所謂一ノ法域ニナッタト云ッテ宜シイノデアリマス、サウ云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、別ニ日本人ト外國人トノ間ニ區分スルト云フ特殊ノ事由ガ無クナッテ譯デアリマス、ソレデ四條ニ依ッテ外國人ニ對シテハ此十八條六號ノ規定ヲ適用シナイ、外國人ガ臺灣ニ於テ資産、營業、職業カラ生ズル所得ヲ持ッテ居ッテ、其者ニ就テハ十八條ノ六號ヲ適用シナイ結果ト致シマシテ、外國人ガ臺灣ニ土地ヲ持ッテ居ル場合ニハ、當然課稅サレル事ニナル譯デアリマス、其次ノ第五條デアリマス、是ハ第三條ノ個人ノ所得ニ就テハ最モ中心ニナル規定デアアルノデアリマス、臺灣ノ方ノ所得稅ノ「立テ方ハ内地ト

全然同ジデアリマシテ、併シ特殊ノ事項ニ限ルト違ッテ居リマスガ、大體ノ仕組ハ内地ト同ジデアリマス、所デ臺灣ニ住所ヲ持ッテ居リマス者ガ内地ニ土地若クハ資産ヲ持ッテ居ルト假定致シマス、其場合ニ於テ臺灣デモ其所得ニ對シテ全部課税スル譯デアリマスカ、一面ニ於テ内地ノ所得税法ニ依リマシテモ、荷モ資産、營業ハ内地ニ在レバ人間ハ居ラナクテモ課税スルト云フコトニナルデアリマス、其場合ニ於テハ此命令ノ定ムル所ニ依ッテ内地ノ資産營業カラ生ズル所得ニ對シテ課税セスト云フコトニナリマシテ、重複課税ヲ避ケ得レルデアリマス、一面ニ於キマシテ臺灣ノ所得税法ニ於テモ、是ト同ジ規定ガ出來マシテ、内地ニ住所ヲ持ッテ居ル所ノ者ハ、臺灣ニ資産、營業ヲ持ッテ居ル者ニ對シテ、臺灣デ課税セスト云フ規定ガ出來ル譯デアリマス、ソレカラ其次ハ第六條デアリマスガ、是ハ所謂税法ノ第二種ノ所得、是ハ主トシテ株券ノ配當ヲ云フデアリマス、例ヘバ株券ノ配當若クハ公債社債ノ利子デアリマス、公債、社債ノ利子ニ就テ各々支拂地デ所得税ヲ課スル事ニナルデアリマス、例ヘバ内地ニ居ル者ガ臺灣ノ銀行カラ公債若クハ社債ノ利子ヲ得タト假定シマス、臺灣ノ公債、社債ニ對スル利子ノ所得税ヲ取ルコトニナルデアリマス、所ガ内地ノ或ル個人カラ申シマスレバ、ソレハ矢張第三種ノ所得ニナルデアリマシテ、ソレニ對シテ内地デモ課税スル事ニナルデアリマス、其場合ニ於テ支拂地ニ於ケル二種ノ所得税ダケ取ッテ、内地ノ第三種トシテ綜合課税ヲシナイ、斯ウ云フ規定デアリマス、ソレカラ其次ニ第七條デアリマスガ、是ハ現行法ト同ジデアリマカ、現行法ノ第三條ヲ唯ダ此方ノ間ニ外ノモノヲ入レタ結果トシテ繰下ッテ來タノデアリマス、大體斯ウ云フヤウナ趣旨デアリマシテ、極ク複雑ナ極メテ分リ難イモノデアリマスガ、御質問ニ依ッテ申シマス

○富永孝太郎君 只今御説明ニ依リマスト、日本ニ國籍ヲ有セザルモノデ今迄課税ヲセラレテ居ッタヤウニ承リマスガ、ソレハ今迄既ニ個人ノ所得税ヲ納メルヤウナ義務ガアルノデスカ

○草間政府委員 イヤ私ノ御説明ノ仕方ガ悪カッタカ知リマセヌガ、例ヘバ外國人ガ臺灣ニ土地ヲ持ッテ假定シマス、其場合ニハ今迄ノ規定ニ依リマスト、内地デハサウ云フ場合ニハ矢張綜合シテ課税シマス、所ガ外國人ニ就テハサウ云フ場合ニ課税ヲ致サナカッタデアリマス、是モ臺灣デ勿論所得税ガアリマセヌカラ課ケコセヌ、今度ハ向フガ所得税法ヲ施行スルコトニナリマシテ、内地ト同ジ法域ニナルコトニナリマスカラ、内地人ト外國人ト同ジ待遇ニシテ共ニ課税スルコトニナリマス

○富永孝太郎君 尙ホ御尋シテ置キタイト思ヒマスガ、此内地ト同様ノ——税率ガ同ジモノデゴザイマセヌカ、個人ノ所得トカ會社ノ所得ハ……

○草間政府委員 大體ノ税率ハ幾ラカ低ウゴザイマス、向フノ方ガ大體ノ仕組ハ殆ド同ジデゴザイマス

○井内歎二君 サウシマス、臺灣ニ所有スル財産ノ所得、銀行ノ預金ト云フ、サウ云フヤウナモノハ臺灣ニテ所得税ヲ拂ッテ居ルノデスカ、本島ニ來テ合併シタ綜合ノ分ハドウナリマス

○草間政府委員 サウ云フモノハ此方ヘ綜合シテ課税サレル譯デス、其代リ向フデハ課税シナイト云フ法律ヲ作ル譯デス、大體ニ於テ綜合スルト云フ原則ヲ通ジテ居ル譯デアリマス

○委員長(坂本素魯哉君) 臺灣デ今度所得税ヲ施行スル、ソレニ對シテ内地ノ所得税法ト違フ所ヲ大體御説明ヲ願ヒマス

○阿部政府委員 其主ナル點ヲ大體申上ゲマス、臺灣ニ律令デ施行サレマス所得税令ハ、内地ノ所得税法ト同一ノ方針ヲ執ッテ居ルデアリマス、只今尙ホ是ハ法制局ノ方デ審議中デアリマス、マダ確定ニ至ッテ居リマセヌデアリマスガ、個人所得ヲ見積リマシタ其豫算ノ基礎ヲ成シマス金額ノ算出ガ、先ヅ第一ニ所得税令ガ所得税法ト異ナル點デアリマス、ソレハ其税率ヲ内地ノ税率ヨリモ多少低率ニ見積ッテアルト云フノガ第一ノ異ナル點デアリマス、其他ノ點ト致シマシテハ調査委員會ノ組織デアリマス、此調査委員會ハ臺灣ニ於キマシテハ選舉ニ依リマセヌデ總督ノ任命ニ依リマシテ、所謂諮問機關ノモノニシタイト云フ點デアリマス、此二點ガ主ナルモ

ノデアリマシテ、免稅點ノ關係トカ其他ノモノニ於キマシテハ、大體内地ノ法ニ依ッテ行キタイト云フ考テアリマスガ、是ハ所得税令トシテハ内地ニアリマス審査、訴願、訴訟等ニ關スル規定ハ全然削除シテアリマス、是等ガ主ナル異ッタ點デアリマス

○富永孝太郎君 第三條ニハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太トアリマスガ、後ノ條項ニハ臺灣ダケデスカ

○草間政府委員 法人ニ對スル所得税ト云フモノハ、朝鮮モ臺灣モ關東州モ樺太モ皆ヤッテ居ルノデアリマスガ、個人所得ニ就キマシテハ臺灣ダケデ、外ニハマダ施行シテ居リマセヌ、ソレデ他日朝鮮、關東州、樺太等ニ於テ個人ノ所得ニモ課税スルト云フコトニナリマシタ際ニハ、自然五條ニモ同様ニ入ッテ参リマス譯デアリマス

○鶴澤宇八君 大體政府委員ノ説明デ分リマシタノデゴザイマスガ、一體吾々臺灣ノ地勢其他ニ就テ内容モ深ク存ジマセヌカラ、茲ニ多クヲ質問スル材料モ持チマセヌノデゴザイマスガ、要スルニ此税法ニ就キマシテハ、既ニ昨年攻究ニ攻究ヲ重ネタ事デアリマスカラ、多ク茲ニ問フヲ要シナイノデゴザイマスカ、此個人ニ所得税ヲ課スルト云フ事ハ、果シテ能ク臺灣ノ今日ノ民度ニ適ッテ居リマスルヤ否ヤ、新領土ハ申ス迄モナク一個ノ組織ヲナスマデハ大分ノ年月ヲ要スルノデアリマスガ、臺灣ハ既ニ他ノ新領土ヨリハ兄サン株ニナッテ居リマシテ、相當ニ組織モ立ッテ來タ今日デアリマスカラ、之ニ稍々内地同様ニ課スルト云フ事ハ、強チニ無理デハナイカトモ思フノデアリマスケレドモ、未ダ及バザル所ノモノガ多クナルノデゴザイマスカラ、尙ホ大ニ進マナケレバナラヌ改革シナケレバナラヌ所ノ臺灣ニ、之ヲ施クト云フコトハ果シテ實際臺灣ノ民度ニ適フヤ否ヤ、更ニモウ一ツハ此所得税ヲ課シマシタ結果トシテ、臺灣ヨリ此個人所得ニ依ッテ得ベキ所ノ財力ガ何程位ノ御見込デアリマスカ、豫メ之ヲ一ツ承ッテ見タイト思ヒマス

○阿部政府委員 御答ヲ致シマス、第一ノ御尋デアリ

第五類第二十七號 大正九年法律第十二號中改正法律案外一件委員會會議錄 第一回 大正十年二月二十五日

マシガ、臺灣ハ領有致シマシテ以來二十六七年ヲ經過致シテ居リマス、其間ニ産業ノ發展進歩ト云フモノハ著シキモノガアルト考ヘルノデアリマス、而シテ租稅組織カラ申シマスレバ、所得稅ナルモノガ租稅系統ノ中樞ヲ成シテ居ルト云フコトハ、大體外國ノ制度ニ於キマシテモ認メラレルノデアリマス、尙ホ極ク幼稚デアルト言ハレテ居ル蘭領、英領其他ノ植民地ニ於キマシテモ、此ノ所得稅ト云フモノハ一般ニ南洋方面邊テモ課セラレテ居ルト云フ狀況デアリマス、免ニ角所得稅ガ租稅ノ中樞ヲ成シマシテ、最モ良イ租稅デアルト云フコトハ申迄モナイコトデアラウト思ヒマス、而シテ是レアリマセヌガ爲メニ、例ヘバ實際ノ現狀ヲ申シテ見マス、臺灣ニ於キマシテハ官吏デアリマス、其他俸給ニ依ツテ生活ヲ致シマスル者ハ、例ヘバ一面ニ於キマシテ土地ノ所有者ニモ相當ニ稅ガアリ、營業ヲ致シテ居リマス者ハ地方稅デアリマス、營業稅ヲ拂ツテ居リマスノニ拘ラズ、俸給生活者ト云フモノハ他ニ何等ノ財產ガアリマセヌ、即チ一文モ租稅ノ負擔ヲシナイト云フヤウナ狀況ニアルノデアリマス、是等ノ點ニ就キマシテハ、恐ラク租稅公課ノ不公平ト云フコトハ何人ガ見マシテモ明カナ事デアラウト存ジマス、而シテ一面ニ於キマシテ民度ハ相當ニ進ンデ參リマシテ、産業ハ發達致シテ參リマシタト云フ今日デアリマスカラ、此最モ相當ナル個人所得稅ヲ課シマスルト云フコトガ、最モ公平ヲ得タモノデアアル、殊ニ第一種所得ハ既ニ先頃課セラレテ居リマス、ソレ等トノ權衡ヲ考ヘマシテモ、個人所得ヲ課稅シテ行キマスコトハ最モ穩當ナル狀態ト考ヘルノデアリマス、併ナガラ始メテ施行セラルル事デアリマスルガ故ニ、全ク内地ト同一ノ稅率ト云フコトハ如何デアラウカ、即チソレ等ノ點モ考慮ヲ致シマシテ、稅率ハ内地ノ其モノニ比スレバ低メテ、此際之ヲ課稅シテ行キタイト考ヘマス、今日ノ民度ニ於キマシテ負擔ニ苦シムト云フコトハナイト確信致シテ居リマス、ソレカラ第一

見込デアリマス
○鶴澤宇八君 此所得稅ノ調査委員及審査委員ヲ官選ニスルト云フヤウナコトデアリマスガ、大分ニ是ハ六三問題ノ當時モ議論ノアツタ事デアリマスケレドモ、政府ガ官選致シタ者デ、果シテ能ク所得稅ヲ徵收シマスル上ニ於キマシテ、苛斂誅求ト云フコトモアリマスマイガ、苛斂誅求ノ所謂不法ナル徵收ヲ致シタ場合ニ於ケル、公平ナル調査ヲシマスル任務ヲ達シ得ラルルト云フコトガ出來ルカ否ヤ、私ハ甚ダ疑問ニ思フノデアリマスガ、是等ニ就キマシテハ何カ半數位ハ民選ニスルト云フヤウナ御考ハアリマセヌデセウカ
○阿部政府委員 或ハ問題ハ、矢張所謂六三問題ニ就キマシテ政府デ答辯ヲ致シマシタ所ノ、今日尙ホ民選ニ依ルト云フ事ハ尙早デアアル、大體是ハ六三ノ場合ハ勿論、六三ノ立法ノ關係デアリマセヌケレドモ、他ニ重要ナル事項ニ對シテ諮問機關ヲ置クト云フコトニナツテ居リマス、其關係ニ於キマシテ今ノ委員會ハ總テ先ツ官選ニ依ツテ之ヲ組織シタイト云フコトニナツテ居リマス、ソレト同一ノ方法ニ依リマシテ、今日ハ未ダ民選ト云フコトハ矢張早イト斯ウ考ヘテ居リマス、勿論人智ガ開ケテ參リマシテ、將來ニ於キマシテサウ云フ時期ノ來ルコトハ勿論希望シテ居ルノデアリマスガ、今日民選ト云フコトハ尙早デアアル、而シテ官選ニ依ツテ果シテ十分ナル目的ヲ達シ得ナイトハ、是ハ全然斯ル機關ノナイコトヲ考ヘテ見マシテ、餘程ノ效果ヲ舉ゲルコト、考ヘテ居リマス、矢張之ニ依リマシテ民間ノ方ガ總テ此委員ニナルノデアリマスカラ、深クソレ等ノ點ニ就テ政府モ調査シテ考究ヲ致シテ、其處ニ相當ノ意見ヲ出シマスルト云フ事ハ恐ラク差支ナイコトデアラウト思ヒマス、ソレ等ハ又政府ト致シマシテ壓迫スルナゾト云フコトハナイ、斯ウ云フ機關ヲ設ケテ十分ニ公平ナル課稅ヲ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、只今地方稅等ヲ昨年改正致シマシテ、地方ノ州、市、街、庄ト云フ者ノ、評議會委員ハ總テ官選ニ依ツテ成ツテ居ルノデアリマス、大體同一ノ筆法ニ於キマシテ、此所得稅法ニ於キマシテモ調査委員ハ官選ニ

シタイト云フ考デアリマス
○鶴澤宇八君 私臺灣ノ事ハ薩張リ分ラヌノデスガ、臺灣ニハ從來ヨリ臺灣ニ居住シタ所ノ所謂純粹ノ臺灣人、謂ハズ支那人ノヤウナ者、支那人種ノ類ノ者ガ大分居ルノデアリマセウケレドモ、從來ノ臺灣人ニシテ大分大キナ財產家ガアリマシテ、ソレノ會社等ニナツテ、既ニ或ル一種ノ課稅ヲ受ケテ居ルモノガ澤山アルノデアリマセウガ、更ニ第三種ノ所得ヲ課スル場合ニ於キマシテハ、臺灣人ノ即チ比較的知識ノ無イ者ガ、此所得稅ヲ課セラレルト云フヤウナコトノ深キ諒解ナイ者ニ此所得稅ヲ課シタ場合ニ於テ、昨年ノ如ク支那ノ排日思想ノ所謂臺灣ニ波及シテ居ル場合モアリマセウト思ヒマス、況ヤ昨今ノ如ク財界ノ不況ハ、臺灣ニ居住シテ居リマス者モ此表向ノ所得ノ割合ニ懷ニハ苦シイ者モ澤山アルト思ヒマス、此場合ニ於キマシテ、是カラ日本ノ内地及總テノ事ヲ知ラス者ニ所得稅ヲ課シタ場合ニ於テハ、思想上ニ及ボス所ノ影響ハドウデアラウカト、私ハ少シク憂フル所ガアルノデアリマス、之ニ對シマシテ臺灣當局ハドウ云フ御考ヲ有ツテ居リマスカ、一寸承リタイ

○阿部政府委員 私共ノ考ト致シマシテハ、此不況ト云フ事ハ相當考慮ヲ加ヘナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、殊ニ新ニ租稅ヲ起シマスルト云フコトヲデアリマセヌデモ、租稅ト云フモノヲ課セラレル事ニ就キマシテハ、矢張相當困難デアルト云フコトヲ言ヒ得ル場合ガアリ得ルノデアリマスケレドモ、是ハ如何ナル場合モ同ジデアリマシテ、所得稅ニ限ル譯デアリマセヌ、併ナガラ實際ニ於キマシテ此計算ヲ致シ、所得稅令ニ於テ定メヤウトシテ居ル率ニ依リマシテ、先ツ大體二百五十萬圓ト云フ課稅ヲ致シマスルニ於キマシテハ、大シタ思想上ニ惡化ヲ及ボスト云フガ如キコトハ、先ツ大體ニ於テ無イト云フ考デアリマス

○委員長(坂本素魯哉君) ソレデハ續イテ明治四十年法律第十一號ノ方モヤリマス
○永井政府委員 此樺太ノ法律案ハ極メテ簡單デアリマスガ、現行租稅ニ關スル法律ハ明治四十年法律

○委員長(坂本素魯哉君) ソレデハ續イテ明治四十年法律第十一號ノ方モヤリマス
○永井政府委員 此樺太ノ法律案ハ極メテ簡單デアリマスガ、現行租稅ニ關スル法律ハ明治四十年法律

○委員長(坂本素魯哉君) ソレデハ續イテ明治四十年法律第十一號ノ方モヤリマス
○永井政府委員 此樺太ノ法律案ハ極メテ簡單デアリマスガ、現行租稅ニ關スル法律ハ明治四十年法律

○委員長(坂本素魯哉君) ソレデハ續イテ明治四十年法律第十一號ノ方モヤリマス
○永井政府委員 此樺太ノ法律案ハ極メテ簡單デアリマスガ、現行租稅ニ關スル法律ハ明治四十年法律

第二十一號デアリマシテ、之ニ依リマシテ總テノ稅ヲ取ツテ居ルノデアリマス、現行ノ租稅科目ヲ申シマスト、戶數割、營業割、雜種稅、所得稅ト云フノガアリマスガ、其次ニ市街宅地稅、酒造稅、醬油稅ノ三稅目ヲ起シタイノデアリマス、此市街宅地稅ハ新設デアリマシテ、只今ノ所デハ市街宅地稅ヲ課シテ居リマセヌガ、併シ今日ノ情況カラ觀マシテ、モウ樺太ノ拓殖モ大分進歩致シマシタ、一面ニ財源ノ必要ガアリマスノデ、市街宅地稅ヲ起シタ方ガ最モ適切デアルト云フ考ヲ以テ市街宅地稅ヲ起シタ譯デアリマス、此市街宅地稅ノ豫定ハ一級二級ニ分ケテ、其坪數ハ約三十六万坪許リアルノデアリマス、課稅ノ歩合ハ一級ガ地價ノ千分ノ五、二級ガ地價ノ千分ノ二デ、大正十年度ノ收入ガ僅ニ四千九百六十一圓ヲ取ルコトニナツテ居ルノデアリマス、是ガ市街宅地稅ノ大體ノ事デアリマス、其次ハ酒造稅、及醬油稅ヲ獨立致シマシタノハ、是ハ全ク徵收上ノ便宜ニ外ナラヌノデアリマス、此酒造稅モ醬油稅モ現今アルノデアリマスガ、現今ハ直接稅ニナツテ居ルノデ、徵收上非常ニ不便デアリマスノデ、之ヲ間接稅トシテ取扱ヒマスト便宜デアリマス、ソレハドウ云フ便宜ガアルカト云ヘバ、犯則處分ヲスル場合デ、只今デハ酒ノ密造ガ行レテ居ツテモ、直接稅ニナツテ居ル爲メニ直チニ其取締ガ出來ヌノデアリマス、之ヲ間接稅トシテ取扱ヒマス、直チニ取締ラシテ處分スルコトガ出來マスト、脱稅ノ虞ナク取締リ得ルヤウニナリマス、ソレデ此酒造稅及醬油稅ヲ獨立シタニ外ナラヌノデアリマス、右様ノ次第デアリマスカラ、ドウゾ御審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

○永井政府委員 酒造稅モ醬油稅モ内地ノ半額デアリマス、酒稅ガ十五圓、醬油稅ガ七十錢デゴザイマス
○鶴澤宇八君 此地租ヲ課スルニ當リマシテ、各市街地ノ所有權ガ未確定ノ場合ガ澤山アリハセヌカト思フノデ、例ヘバ豊原ナリ、大泊ナリ、敷香ナリ、是等ノ市街地ニ於テ既ニ拂下ヲ受ケタモノハ、所謂地租ヲ課セラレルノデアリマセウガ、貸付ヲ受ケテ

居ルモノガアリハセヌカト思フ、是等ノモノハ此地租ヲ課スル場合ニ於テ整理スル必要ガアラウト思ヒマスガ、當局者ハドウ云フ御考ヲ持ツテ居ルデセウカ
○永井政府委員 大體ニ於キマシテハ、未ダ拂下ヲ受ケテ居ラスモノニハ課セナイ積リデアリマス、併ナガラ拂下ノ程度ニ至ツテ居ラスモノハ出來ルダケ早ク拂下ヲシテシマヒタイト考ヘテ居リマスノデ、其モノハ漸次整理ヲ急イデヤリタイト考ヘテ居リマス、併ナガラ原則トシテハ拂下ニナラヌモノニハ課セナイコトニシテ居リマス

○永井政府委員 此市街宅地ノ方ハ、所有權ノ確定ト云フ事ハ獨リ樺太廳ノ希望アルノミナラズ、所有者自身モ非常ニ希望シテ居ルノデ、若シ自己ノ所有權ヲ確定スレバ、金融上ノ關係モ非常ニ便利デアリマス、其他ノ關係上カラ所有權ノ確定ト云フコトハ、所有者ノ方デ非常ニ希望シテ居ルノデ、所有權ガ未ダ確定シナイト云フノハ、所有者ノ方ノ側デモ未ダ十分ニ色々ノ準備ガ届カヌ爲メデアリマスカラ、樺太廳ニ於テモ出來ルダケ督勵ヲ致シマシテ、是等ノ個人ノ所有權ヲ速ニ確定サセタイト考ヘテ居リマス、隨テ期限ヲ附スルコトモアリマセウシ、其他所有權ノ確定スルコトヲ急グ積リデアリマス

○永井政府委員 樺太廳ニ於テハ、此提案サレタ以外ノ地租ニ對シテモ順次課稅スル目的デアリマセウカ
○永井政府委員 成ベク市街宅地以外ノモノニ對シマシテモ課稅ヲ致シタイ希望ヲ持ツテ居リマスケレドモ、何分市街宅地以外ノモノニ於テハ、未ダソレ程ノ程度ニ達シテ居リマセウカ、當分ノ内ハ課稅ガ

出來ナイト考ヘテ居リマス、併シ追々ハ課シテ行キタイ考デアリマス
○井内歡二君 從來樺太ニハ澤山地方カラ移入酒ガ入ツテ居ルヤウデ、戻稅ハ從來通り變リマセヌカ
○永井政府委員 御問ノ通り變リマセヌ
○富永孝太郎君 從來ノ法律ノ第一條ハ戶數割、營業稅、雜種稅、是ダケノ稅目デアリマスガ、今度新ニ御加ヘニナツタノハ五、六、七トナツテ居リマスガ、四ハ何デアリマスカ
○永井政府委員 四ハ所得稅デアリマス、是ハ昨年改正ニナリマシタノデ

○委員長(坂本素魯哉君) 一寸私ガ御尋シマスガ、千分ノ五ト千分ノ三ト云フモノハ、ドウ云フコトニナツテ居リマスカ
○永井政府委員 是ハ地價ニ依リマシテ、地方ノ地價ガ賣買價格ナリ、金融上抵當關係ニ於キマシテモ廉ウゴザイマスカラ、ソレニ應ジマシテ一級ノ方ト二級ノ方ハ程度ヲ異ニ致シマシタ
○委員長(坂本素魯哉君) 一級ハ現在デハ地價ハドノ位デアリマスカ
○永井政府委員 他價ノ方ハ、只今現在ヤツテ居リマスノハ一級ハ三十圓、或ハ十圓ト云フノガアリマス、二級ノ方ニナリマス、ストズト廉イノデアリマス、五圓トカ或ハ三圓半トカ云フノガアリマス
○委員長(坂本素魯哉君) サウスルト政府デハ之ヲ何時頃ニナツテ民間ニ拂下ゲナサラウト云フ御意齋ガアリマスカ
○永井政府委員 是ハ只今デモ一定ノ條件ヲ滿シタ者ニ對シマシテ、或ハ希望ヲ滿シタ者ニ對シマシテ拂下ゲテ居リマス
○委員長(坂本素魯哉君) 普通ノ地價同様ニシテ居リマスカ

○永井政府委員 政府ハ出來ルダケ廉クシヤウトハ思フテ居リマスガ、大體等級ヲ決メテ居リマス
○富永孝太郎君 公定ノ地價ハマダ御積リガアリマ

○永井政府委員 政府ハ出來ルダケ廉クシヤウトハ思フテ居リマスガ、大體等級ヲ決メテ居リマス
○富永孝太郎君 公定ノ地價ハマダ御積リガアリマ

セヌカ

- 永井政府委員 公定ノ地價ハアリマセヌ、唯ダ樺太廳デ賣下地價ノ等級ダケハ決ツテ居リマス
 - 竹上藤次郎君 質問打切ノ動議ヲ提出致シマス
 - 委員長(坂本素魯哉君) ソレデハ皆サン質問ハゴザイマセヌカ——ソレデハ質問ハ終了致シマシタ、今日ハ是デ止ヌマス
- 午前十一時五十四分散會

大正十年三月一日印刷

大正十年三月二日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局